

学 科	作業療法士学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名	作業療法概論Ⅰ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	夜間部1年	学期	後期	教室名	803
担 当 教 員	林 辰博				
実務経験とその関連資格	作業療法士として総合病院に勤務し身体障害領域に従事。各種心身機能・活動・参加・環境に対する各種評価・作業療法を実施。				
	大阪府作業療法士会理事(災害支援・福祉用具)、日本作業療法士協会部員(教育部・地域社会復興部) 大阪市障がい支援区分審査員、東大阪介護保険福祉用具貸与・住宅改修調査員、JRATなどでも活動 生活行為向上マネジメント(MTDLP)基礎研修講師 (MTDLP実践者) 臨床実習指導者講習会終了、臨床実習者指導者講習会講師 作業療法士、公認心理士 防災士、防災介助士、サービス介助士、応急手当普及員 Arnadottir OT- ADL 神経行動学的評価法(A-ONE)認定評価者・講師 教育学修士(専門職)				
《授業科目における学習内容》 作業療法の対象・領域・働く場・治療方法などを講義・演習によって必要性を学び理解してもらいます。 模擬事例を生活行為向上マネジメント(MTDLP)におけるアセスメントシート、プランシートを用いてまとめなおしてもらいます。まとめなおす過程を通じて、作業療法の流れ・思考を理解してもらいます。また、ICF(心身機能身体構造、活動、参加、環境因子、個人因子)における相互関係を理解し、また作業療法の治療について理解してもらいます。					
《成績評価の方法と基準》 定期試験 :50% 予習課題:10% 小テスト :20% レポート :20%					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 ・標準作業療法学 作業療法概論 第4版 ・作業療法マニュアル77 生活行為向上マネジメント 改訂第4版 (参考)標準作業療法 作業療法評価学 第3版					
《授業外における学習方法》 小テスト勉強 ICTを活用した授業の復習・予習(詳細に関しては授業オリエンテーション時に説明します。)					
《履修に当たっての留意点》 作業療法のイメージを持ってもらうための授業です。授業の中でうまれた疑問はそのつど解決してください。 作業療法を行なうにあたり根拠が必要となります。教科書がみなさんの根拠であり基本になります。教科書をお友達にしてください。					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	MTDLPの背景・用語・軸となる考え方について説明する事が出来る。	作業療法マニュアル77 生活行為向上マネジメント 改訂第4版	OT協会HP参照: http://www.jaot.or.jp/science/MTDLP.html MTDLPについて・MTDLPの位置づけ	
	各コマにおける授業予定	授業オリエンテーション MTDLPについて			
第2回	授業を通じての到達目標	対象領域・働く場・時期・サービス内容を列挙できる。作業療法の定義に関して述べる事ができる。	標準作業療法学 作業療法概論 第4版	作業療法概論 P.3～12 作業療法概論 P.40～47	
	各コマにおける授業予定	I 作業療法の紹介 ① 作業療法の意味：A 作業療法の定義、E 作業療法の対象 ④ 作業療法の実践現場：A 医療の実践現場	作業療法マニュアル77 生活行為向上マネジメント 改訂第4版		
第3回	授業を通じての到達目標	作業について説明が出来る。ライフサイクルにおける必要な作業を列挙することが出来る。作業における治療的な使用方法について説明できる	標準作業療法学 作業療法概論 第4版	作業療法概論 P.6～11 P.34 P.51～52	
	各コマにおける授業予定	I 作業療法の紹介 ① 作業療法の意味：C 作業療法における「作業」、D「作業」を治療として用いる意味 ③作業療法に関連する予備知識：C 対人関係ダイナミクス II 作業の分析値治療への適用 ① 作業の分析 *(参考図書) 生活と作業：ライフサイクルと作業	(参考)作業療法学全書 作業療法概論 改訂第3版		
第4回	授業を通じての到達目標	ICF・ICIDHの項目が列挙でき、各項目について具体的に説明・分類できる。	標準作業療法士 作業療法概論 第4版	小テスト:第1～3回目までの授業内容 作業療法概論 P.30～32 ICF 国際生活機能分類 P.1～23 セラピストのための・・・P.17	
	各コマにおける授業予定	I 作業療法の紹介 ③ 作業療法に関連する予備知識：B 病気と障害の誓い 4.ICF構成要素の概観 5.生活機能と障害のモデル 6.ICFの使用 *(参考図書)2. 疾病と障害構造 2. 国際構造分類(ICIDH)	ICF 国際生活機能分類		
第5回	授業を通じての到達目標	ADL・IADLの項目が列挙できる。 健康・QOLについて説明することが出来る。	標準作業療法学 作業療法概論 第4版	作業療法概論 P.9～10 P.29～30	
	各コマにおける授業予定	I 作業療法の紹介 ①「作業」の意味：C 作業療法における「作業」 ③ 作業療法に関連する予備知識：B 病気と障害の理解			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	作業療法の実践課程を列挙でき、各内容について説明することが出来る。 作業療法2つのステージ・情報収集の内容について説明できる。	標準作業療法学 作業療法概論 第4版	作業療法概論 P.145～154
	各コマにおける授業予定	Ⅳ 作業療法の実践課程 ① 作業療法の仕組み：A 作業療法士の業務、C 作業療法の実践課程 ② 評価と問題点の抽出：A 情報収集の段階、		
第7回	授業を通じての到達目標	治療目標の設定(短期目標・長期目標)について説明できる。 治療プログラム立案のための項目・内容を説明することが出来る	標準作業療法学 作業療法概論 第4版	作業療法概論 P.156～161
	各コマにおける授業予定	Ⅳ 作業療法の実践課程 ② 評価と問題点の抽出：E 治療目標の設定 ③ 治療プログラムの立案・フォローアップ：A 治療プログラムの決定		
第8回	授業を通じての到達目標	作業療法を行うまでの因果関係を説明できる。	標準作業療法学 作業療法概論 第4版	小テスト:第4～7回目までの授業内容
	各コマにおける授業予定	CaseA演習①(レポート①)	標準作業療法 作業療法評価学 第2版	作業療法評価学 P.36～52
第9回	授業を通じての到達目標	聞き取りシートに沿った聞き取りをすることが出来る。 対象者の具体的な生活行為の目標を聞き取る事ができる。	標準作業療法学 作業療法概論 第4版	作業療法評価学 P.36～52
	各コマにおける授業予定	CR Case A 聞き取り演習説明・実践	標準作業療法 作業療法評価学 第2版	
第10回	授業を通じての到達目標	聞き取りシートに沿った聞き取りをすることが出来る。 対象者の具体的な生活行為の目標を聞き取る事ができる。	標準作業療法学 作業療法概論 第4版 標準作業療法 作業療法評価学 第3版 作業療法マニュアル77 生活行為向上マネジメント改訂第4版	作業療法評価学 P.36～52
	各コマにおける授業予定	CR Case A 聞き取り演習説明・実践 レポート①：授業終了時提出		生活行為向上マネジメント P.22～25
第11回	授業を通じての到達目標	事例から作業療法実践内容(問題点・目的・作業療法内容)を列挙できる。	作業療法マニュアル77 生活行為向上マネジメント 改訂第4版	生活行為向上マネジメント P.52～70
	各コマにおける授業予定	MTDLPの実践報告を読み、問題点・目的・作業療法内容を読み解く		
第12回	授業を通じての到達目標	心身機能・構造、活動・参加、環境因子に分類できる。 各項目の因果関係を関連付け選択・分類できる	作業療法マニュアル77 生活行為向上マネジメント 改訂第4版	生活行為向上マネジメント P.26～34
	各コマにおける授業予定	・生活行為アセスメント演習シート：説明・演習①		
第13回	授業を通じての到達目標	心身機能・構造、活動・参加、環境因子に分類できる。 各項目の因果関係を関連付け選択・分類できる	作業療法マニュアル77 生活行為向上マネジメント 改訂第4版	生活行為向上マネジメント P.26～34
	各コマにおける授業予定	生活行為アセスメント演習シート：説明・演習② 『レポート提出②：10%』		
第14回	授業を通じての到達目標	各プランの項目に相応しいプランを考える事が出来る。 アセスメントシートの内容に関するプランを考える事が出来る。	作業療法マニュアル77 生活行為向上マネジメント 改訂第4版	生活行為向上マネジメント P.34～39
	各コマにおける授業予定	生活行為プラン演習シート②GW		
第15回	授業を通じての到達目標	アセスメントシートの内容に関するプランを考える事が出来る。 5W1Hを意識したプランを立てることが出来る。	作業療法マニュアル77 生活行為向上マネジメント 改訂第4版	生活行為向上マネジメント P.34～39
	各コマにおける授業予定	生活行為プラン演習シート③		